

菊池さん（協成）全国町村会自治功労者表彰感謝状を伝達

長年、町長として町政を務められた菊池一春さんが、全国町村会から感謝状を受けました。

菊池さんは、平成19年から令和5年まで4期16年にわたり、町の発展にご尽力されました。

2月14日に役場で、伊田町長から感謝状が伝達されました。



1 店舗が訓子府町店舗出店等支援事業に認定

認定審査会議が3月5日に開催され、下表のとおり町補助事業として認定されました。

事業名	申請者（事業主体）	事業内容
賃貸物件による起業 （機械器具小売業）	（株）明和電器商会 代表取締役 佐伯 英二	住所：訓子府町栄町3番地 店舗：めいわでんき 店舗面積：75.87㎡ 業種・業態：家電小売業

■問合せ 経済振興室振興係（☎ 33-5008 役場2階 窓口13番）

住民税均等割のみ課税世帯に対する臨時特別給付金

エネルギー・食料品価格などの物価高騰による家計への負担増を踏まえ、住民税均等割のみ課税世帯に臨時特別給付金10万円を支給します。

○支給対象世帯 令和5年12月1日時点において町の住民基本台帳に記録されている方で、世帯全員が令和5年度の住民税均等割のみ課税者の世帯、または均等割のみ課税者と非課税者で構成される世帯のうち、全員が住民税を課されているほかの親族などからの扶養を受けていない世帯

※世帯の中に1人でも扶養を受けていない方がいれば支給要件に該当します。

○支給額 1世帯当たり10万円

○給付手続き 対象と見込まれる世帯に2月15日付けで確認書を送付していますので、必要事項を記入の上、提出してください

○申請期限 4月30日(火)必着（郵送でも受け付けしています）

■問合せ 福祉保健課社会福祉係（☎ 47-5555 総合福祉センター 窓口7番）



今月の夜間町長室開放は4月10日(水)です

ご予約は政策推進課（☎ 47-2115）まで 開設時間 18時30分～20時30分

高知県津野町↔北海道訓子府町 職員人事交流

平成24年度からスタートした姉妹まち・高知県津野町と訓子府町の職員人事交流は、令和6年度に両町の派遣職員が交代します。

津野町からの石田純也さんと訓子府町の合田吏希さんは2年間の研修を終え、帰郷。そして新たに本町から寺町知晃さんが津野町へ、津野町から高橋愛実さんが本町に赴任しました。



2年間ありがとうございました

いしだ じゅんや
石田 純也

訓子府町での人事交流研修が終了し、高知県津野町へ戻りました。訓子府町では、企画財政課・町民課に配属となり、主にふるさと納税や住民活動などの業務に携わらせていただきました。

不安の多い北国生活でしたが、訓子府町の皆さんに温かく接していただいたおかげで、充実した日々を送ることができたことに感謝しています。

振り返れば短いと感じる2年間でしたが、コロナ禍での生活が少しずつ緩和され、多くの方々と交流し、数えきれないほどの思い出や貴重な経験を積むことができたことにとっても感謝しています。

今後も両町の交流がさらに深まるよう努めていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

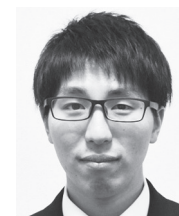
交流が深まるようがんばります

たかはし あみ
高橋 愛実



このたび、人事交流職員として高知県津野町の認定こども園さくらんぼ園から訓子府町認定こども園わくわく園に赴任しました高橋愛実です。

津野町にしか住んだことがない私にとって、北海道に住むのは初めてで慣れない環境の中での不安はありますが、それ以上に訓子府町の方々や子どもたちと交流できることを楽しみにしています。また、こども園では、私の関わりが子どもたちの成長を支えるという責任感を持ち、子どもたちだけでなく保護者の方々とも信頼関係を築きながら、楽しく保育をしたいと思っています。限られた期間ではありますが、人事交流職員として訓子府町と津野町の交流がより深まるようがんばりますのでよろしくお願い致します。



子どもたちとの出会いが楽しみです

てらまち かずあき
寺町 知晃

人事交流職員として4月から高知県津野町に赴任しました。

保育教諭職として北海道ではない地域の保育・教育を実際の現場の中から学ぶことをうれしく思います。新たな環境の中で、幼児教育を通して、たくさんの方と交流し、学び多き2年間にしたいと思います。

訓子府町に戻ってきました

ごうだ りき
合田 吏希



令和4年度から2年間、津野町での人事交流派遣が終了して訓子府町へ戻ってきました。

津野町では、産業課に配属となり、主にイベント・商工業関係・河川清掃などに関する業務に携わりました。1年目は新型コロナウイルス感染症によるイベントの中止や規模縮小があり、仕事でもプライベートでも活動しにくい日々が続きました。2年目からは新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、イベントも復活してうれしい反面、初めてのイベント準備や運営のためのさまざまな業務、商工会やイベント会社との調整などで苦労したことが懐かしく思います。

プライベートの面でも、バレーボールやマラソンなどのスポーツ交流を通して町民の方々と関わることができ、かけがえのない思い出となりました。今まで北海道で過ごしてきた私にはない、数々の経験ができ、大変充実した2年間でした。このような交流を設けていただいた津野町・訓子府町に感謝し、今後とも両町の交流の懸け橋となるよう一生懸命努めます。